

英国での不妊治療(1)



昨今、晩婚化にともない不妊症で悩まれるカップルが増加していると言われています。不妊症が増えている背景には、生活様式の変化、過剰なストレスなどもあげられます。今回は、社会的な要因から引き起こされる現代病とも言える不妊症についての第一話です。

不妊症とどのように診断しますか？

「避妊せずに夫婦生活を営んでいても、2年以上にわたって妊娠に至らない状態」を不妊症とすることが一般的です。通常、1年以内に妊娠する確率は約80-85%で、2年以内に約85-90%のカップルが妊娠に至ると言われています。結婚年齢が高くなると不妊症の頻度が高くなるため、最近是不妊期間が1年でも検査や治療を開始することが少なくありません。

不妊の原因を見つけるために、どのような検査をしますか？

女性側の検査としては、以下の項目が上げられます。

- 基礎体温測定(排卵などを確認します。)
- 血液中ホルモン検査(排卵障害や着床障害を調べます。)
- 経膈超音波検査(卵胞の発育、子宮や卵巣の状態などをモニターに映し出します。)
- クラミジア検査(卵管性不妊と関連があります。)
- ヒューナーテスト(排卵日頃の早朝に性交し、病院で頸管粘液中の精子数を調べます。)
- 子宮卵管造影(子宮の形と卵管の通過性を調べるレントゲン検査です。)
- 抗精子抗体(受精障害に関連する血液検査です。)

必要に応じて、他の検査が追加されることがあります。ちなみに英国では、基礎体温測定やヒューナーテストは、それほど行われていません。

男性は、精液検査(精子の数、運動率、形態など)を行います。精液検査の結果が正常であれば、他の検査は必要ないことが一般的です。